

令和6年度第1回子ども・子育て会議 会議録

日時

令和6年4月25日（木）午後2時から4時まで

場所

流山市役所第1庁舎4階委員会室

出席委員

村上 涼会長、田中 由実副会長、設楽 小百合委員、箱田 久美子委員、上橋 泉委員、藤本 喜代美委員、若松 文委員、矢部 ひとみ委員、蛸原 正貴委員、小澤 孝江委員

欠席委員

藪本 敦弘委員、堰塚 裕一委員、長谷部 敬子委員、森下 温子委員

傍聴者

5名

事務局

竹中子ども家庭部長、小谷子ども家庭課長、栗原子ども家庭課虐待・DV防止対策室長、宮澤健康福祉部次長兼障害者支援課長、平尾児童発達支援センター所長、新倉教育総務課長、岩田教育総務課学童クラブ係長、石川子ども家庭課長補佐、小谷子ども家庭課子ども政策室長、北根子ども家庭課主任主事、賀上子ども家庭課事務員、梅田子ども家庭課会計年度任用職員

議題

（1）講演会

講師：特定非営利活動法人わかもののまち 代表理事 土肥 潤也氏

演題：「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」の活用に向けた
取り組み 等

（2）「流山市子ども・子育て支援ニーズ調査」に係る調査項目の検討について

（3）流山市こども会議の報告について

(4) その他

配付資料

資料 1 : 「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」の活用に向けた
取り組み

資料 2 - 1 : (仮称) 流山市こども計画策定に関するニーズ調査 ～就学前のこども用～

資料 2 - 2 : (仮称) 流山市こども計画策定に関するニーズ調査 ～小学生用～

資料 2 - 3 : ニーズ調査にかかる御意見・御質問一覧表

資料 3 : 流山市こども会議概要

資料 3 - 1 : 流山市こども会議報告会資料 (第 1 グループ)

資料 3 - 2 : 流山市こども会議報告会資料 (第 2 グループ)

資料 3 - 3 : 流山市こども会議報告会資料 (第 3 グループ)

参考資料 1 : こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン
～こども・若者の声を聴く取組のはじめ方～

議事録《概要》

《村上会長》

会議の議題に入る前ですが、事務局から報告したい旨の申出がありましたので、小谷課長から報告をお願いします。

《小谷課長》

市職員の紹介

《村上会長》

ただいまから令和 6 年度 1 回流山市子ども・子育て会議を開会します。

初めに、本日の出席をご報告します。ただいまのところ、出席委員 9 名、欠席委員 5 名であります。よって、定足数に達しておりますので会議は成立していることをご報告いたします。

傍聴される方は、会場での写真撮影、録画、録音は行わないでください。また、その他、会議に支障をきたす行為は行わないでください。会長の命令に従わない場合は退室をお願いする場合がありますので、ご協力よろしくお願いします。

初めに、議題の (1) についてですが、本年 2 月 15 日に開催した令和 5 年度第 6 回会議に続き、第 2 回目の外部有識者からのヒアリングとなります。

今回は、大学在学時、高校生と大学生で静岡市の人口減少対策に関する提言をまとめる委員会を結成し市長に提言する活動や、最近では、若者が参画するまちの生態系をつくりだす「わかもののまちモデル自治体」づくりなど、若年層の意見がまちづくりに反映される活動を展開し、こども家庭庁の「こども家庭審議会委員」や「こども・若者参画及び意見反映専門委員会」の委員も務められております、特定非営利活動法人わかもののまち代表理事の土肥潤也氏をお招きして、「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」の活用に向けた取り組み等について、お話をお伺いしたいと思います。

それでは、土肥講師をお願いします。

【講演会】

資料１：「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」の活用に向けた
取り組み 説明

《村上会長》

土肥講師、ありがとうございました。今のお話を伺いまして、子ども・子育て会議委員及び事務局の方から、ご質問、感想、ご意見等がある方は挙手をお願いします。

《蛭原委員》

静岡市の取組の中で、ファシリテーター等を入れて会議をされていたと思うのですが、実際にこども達からどのぐらいの意見等が聴取できて、どのぐらいのこども達が、参加もしくは参加希望したのかを教えてくださいたいです。

《土肥講師》

こども達は、参加のところで考えると、各小・中学校からの推薦の形で参加してくれているので、学校によって募集方法が異なっています。立候補方式で集めたところもあれば、先生が推薦するところもあるので、全体像を把握するのは難しい問題です。

また、意見の数については、全数は数えてないのですが、１グループ当たり約５０個の意見が出されていた印象があります。

《蛭原委員》

今年度、流山市こども会議に参加した時に意見を聴取するプラットフォームを通

じて意見を募集したのですが、意見を出す場があっても、こども達からの意見が上がってこないことがあります。教育委員会が強く関与し、学校の授業時間を使って意見を集めることも可能だったかもしれませんが、意見を出す場所があること自体を知らないこども達も多く、その結果、一部のこども達だけの意見が集まってしまう可能性があります。

広範な意見が集まることが望ましいのですが、そのためにプラットフォームを作り、それをどのように周知したのか、そして学校への働きかけがどの程度あったのかについての情報をお聞きしたいです。

《土肥講師》

学校からの働きかけはなかったと思います。

こども達は真面目で、事前に提供された動画を見るなどして意見を出すための準備をしていました。また、ジャムボードというツールを使って、会議の1週間前から意見を投稿できるようにしていました。この結果、会議が始まる前にすでに約10～20件の意見が集まっていました。

また、意見を求める際には聞き方や問い方が重要であると考えています。何でもいいから意見を出してください。というアプローチの仕方ですと、大人でも意見を出すのは難しいと思います。

静岡市教育委員会のワークショップの場合は、まず、こども達に自分の学校を0点から100点で評価するように求めました。そして、こども達には各々の評価について、なぜその点数が付いたのかを書き出してもらいました。学校の良い点や続けてほしい点は赤の付箋、不満や改善してほしい点は青の付箋、教育委員会の方々が話し合いの中でこうあって欲しいと感じたことをアイデアとして緑の付箋に書き出しました。

このように、問の立て方や聞き方を工夫することで、授業中に積極的に話し合いを取り入れる先生や、ルールを破る人がいてクラス遊びが週1しかできない等のさまざまな意見を出していただくことができました。

《矢部委員》

先生が「教える」のではなく、こどもが「学ぶ」授業が良いとおっしゃっており、こどもが主体とはそういう事だと感じました。

こどもが自分から学び、意見を述べたいと思う環境を作るには、大人が雰囲気を作り出すことが必要だと思います。こどもが自ら意見を述べやすい環境を作るための接し方や問いかけの方法について教えていただけますでしょうか。

《土肥講師》

こどもの年齢や成長度合によって取組内容は変わりますが、日常から意見を述べる経験が重要であると思います。

静岡県の藤枝市では、保育園でこども会議を開き、市の職員が保育園児から意見を聞いています。実際にこども達から多くの意見が出ていたのですが、日常から意見を言うためには、こどもが意見を述べるための仕組みを作るだけでなく、関わる大人のスタンスもかなり重要であると思います。

また、こどもが日常的に接している大人がこどもの可能性を信じていないと、こどもの意見が十分に聞かれない可能性があると思います。幼稚園や保育園では、どこまでこどもの声を聞くか、どこまで許容するかは、園の方針によるところが大きいと思われませんが、社会全体としては、学校でも自分達の頭で問題を解決する探求学習が始まっており、幼稚園や保育園でもあれをなさい、これをなさいというのではなく、こども達の声を聞くことが重要になってきていると考えています。そのため、大人もこども達の声を聞くスタンスを持つことが、社会全体でどのように浸透させていくかが非常に重要であると考えています。

《村上会長》

ありがとうございました。

幼稚園、保育園との話が出ましたが、上橋委員、藤本委員ご意見いかがでしょうか。

《上橋委員》

こどもは自由に意見を述べ、その意見は年齢や環境に関係なく出されます。

しかし、若者は年齢とともに賢くなり過ぎ、自由に意見を述べることが少なくなってくると思います。特に、現代の若者は過去の世代よりも賢くなり過ぎていると感じています。

それに対して、幼稚園や保育園のこども達は自由に意見を述べ、驚くほどの意見を出すことがあります。これがこども達の本当の姿であると考えています。

《藤本委員》

私の保育園では、こども達が喧嘩したときには「ピーステーブル」という喧嘩したこども達同士で話し合う場を作っています。これは、なぜ今喧嘩をしたかの理由をお互いに出し合うものです。

また、こども達が対話の機会を増やせるように「こども哲学」を取り入れていま

す。複数の絵本を読んだうえで、どちらの本のよかった点や疑問点について話し合う場を設けています。話し合う際には、話し手はぬいぐるみを持ち、他のこども達は聞くというルールを設けています。新しい5歳児から4、3歳児に対話を取り入れる計画もあり、障害児の子も含めて、じっくりと話を聞く時間を設けています。その取組が良いか悪いかは分からないが、引き続き取組んでいこうと思っています。

《村上会長》

土肥講師の意見をお聞きして、藤枝市の保育園での聞き取りについて興味があります。特に、大人のスタンスと環境設定が重要であると考えており、その点について詳しく話をお聞きしたいです。

《土肥講師》

藤枝市では、昨年までは私はアドバイザーとして参加しており、市の職員主導でこども達からの意見を聞く活動をしておりました。担当課には保育園・幼稚園からきている職員がいたため、この活動を実現することができたと思います。実際には、こども達の生活について普段感じていることをテーマに意見を聞くことを実施しました。私自身も現場に立ち会いたかったのですが、大人が多くいるとこども達は意見を言いにくいという理由から、残念ながら立ち会うことができませんでした。

それでも、後日の報告では多くの意見が寄せられ、保育士さん達からもこの活動に対してポジティブな反応が得られたと伺っています。

《田中副会長》

こども達の意見は学校に対しても出されますが、学校がそれらの意見を取り入れることで、どのようなメリットがあるのかについて理解してもらうためには、どうしたらよろしいでしょうか。

《土肥講師》

前提としてこれは、メリット・デメリットの話ではないということをお伝えしています。法律にもなっていますし、日本はこどもの権利条約を批准している国でもあるので、これは権利として保障されるものということはお伝えをします。

学校では生徒の自主性と主体性が教育のキーワードになっております。探究学習が各学校では行われているものの、授業中は主体性と言うものの、普段の学校生活では主体的でないのはおかしいと伝えます。

先ほど例に挙げた高校では、中間管理職が若手教員に権限を委譲しており、学校

内での教員参画が実現しています。

市民活動や市民協働が盛んな自治体では、子ども達が町に参画することや意見を述べるのが容易に受け入れられやすいです。自身が参画しているところに子どもも加わるのだと考えるからです。また、こどもの参加や意見を聞くうえで、論点を明確にすることが重要です。

こどもの意見が不要だと考える大人達はよい子ども達の意見を聞いたことがないため、一度意見を聞く体験をすべきだと思います。子ども達はどうせ意見が反映されないと感じてしまうと、適当な意見を述べてしまう可能性もあるため、きちんと意見を聞ける場を設け、大人達に意見を聞く体験をしてもらう必要があると思います。

《竹中部長》

子ども・子育て会議は、子ども計画の骨子作りの展開になっていく中で、「こども大綱」に記載されているような子ども・若者の参画や意見聴取など、こどもの権利保障に関する事項を含めて計画を進めていきたいと考えています。

そのプロセスの中で流山市子ども会議を単発で実施させていただき、子ども達の声や意見、想いを大人がどう受け止め、引き出していくのか、大人の力が重要だと思っています。その日はファシリテーターの大学生や事務局の職員も関わっていたのですが、子ども達に対して話しかけるタイミングや、子ども達の発想に対し、良いのか悪いのかの評価をどの段階でしたらよいかなどが分からず、試行錯誤しながら実施してきた次第です。

子ども達からは本当にテーマに沿った報告をしてもらったため、市としてしっかりと受け止めさせていただき、できるだけ施策に反映させ、フィードバックを実施していきたいと思います。

また、オンラインプラットフォームの Liqlid の導入を検討したいと思います。

《土肥講師》

費用面等の詳しい資料については別途お送りしたいと思います。

現在、Liqlid は実証実験的に様々な自治体へ導入を実施しております。システム導入費用がデジタル田園都市国家構想交付金の対象となり、採択実績があるため、同様に国費を活用すると導入しやすくなるかと思っています。

また、現在、静岡県レベルでの導入の話が進行中であり、各自治体が利用できるモデルの開発についても話をしています。導入が実現されると、各自治体のすべての部署がそれを利用でき、例えば、新しいこども施設を作る際に、各部署間での連

絡をオンライン上で行うことが可能になります。

また、今年から来年にかけては、導入モデルをしっかりと作り上げたい時期であり、協力できる自治体を探しているところです。特に流山市には、積極的に参加していただけたらありがたいと思います。

《設楽委員》

Liqlidのワードクラウドでは、意見が多いものが大きく表示され、それに関連するものがクリックすると表示されますとのことですが、これは意見が多いものが注目されやすく、反映もされやすいといった傾向になってしまうのでしょうか。

《土肥講師》

統計分析はあくまでも傾向をつかむために実施するものであり、傾向自体をつかむことは重要であると思います。

しかし、固有であるものの、非常に重要な意見もあるため、基本は意見を一つ一つ見ていき、それについてどのように反映していくか検討することが必要とされています。それらの意見を見ていき、どの様に政策に反映していくかは自治体側の真摯さが大きく影響すると考えています。

《設楽委員》

大多数の意見じゃない意見も拾っていく方法があるといいなと思います。

《村上会長》

それでは、質疑応答・意見交換を終了させていただきます。

流山市でもこども会議を初めて2023年度に行いました。今日のお話は静岡市の事例から具体的な方法をご教示いただきまして、どこをどういうふうに変えていったらいいのかが、とても明確にお話から理解できました。

今後のこどもの声を聞くこと、そしてそれを施策に生かしていくことに、今日のお話を生かしていきたいと考えております。

土肥講師におかれましては、大変お忙しい中、本市のためにご講演を賜りまして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは、議題（１）については以上とします。

次に、議題の（２）「流山市子ども・子育て支援ニーズ調査」に係る調査項目の検討についてです。それでは、事務局から資料２－１～３について、説明をお願いし

ます。

《事務局》

資料２－１：（仮称）流山市こども計画策定に関するニーズ調査 ～就学前のこども用～

資料２－２：（仮称）流山市こども計画策定に関するニーズ調査 ～小学生用～

資料２－３：ニーズ調査にかかる御意見・御質問一覧表 説明

《村上会長》

以上で、事務局からの説明は終わりました。

このことについてご意見をお願いいたします。

《全出席委員》

【異議なし】

《村上会長》

ご意見等がないようですので、調査票につきましては、会長と事務局にご一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

《全出席委員》

【異議なし】

《村上会長》

ご了承いただきましたので、私と事務局にご一任いただき、相談して結論を得た後に委員の皆様にご報告させていただきます。

それでは、議題の（２）については以上とします。

次に、議題の（３）流山市こども会議の報告についてです。

それでは、事務局から資料３、３－１から３－３について説明をお願いいたします。

《事務局》

資料３：流山市こども会議概要

資料３－１：流山市こども会議報告会資料（第１グループ）

資料３－２：流山市こども会議報告会資料（第２グループ）

資料３－３：流山市こども会議報告会資料（第３グループ） 説明

《小澤委員》

全てのこども会議に参加したわけではないですが、最初にファシリテーターの役割や進行方法について懸念がありました。しかし、自発的に参加したメンバーや江戸川大学の学生達がファシリテーターとして活躍し、こども達の意見をうまくまとめることができました。こども達は自分達の意見を市長や教育長に発言することの価値を実感したと思います。

しかし、発表の当日、こどもが「ささいなことなんですけどね」と言った瞬間、大人がその言葉を引き出したと感じました。こどもの意見を聞くことの本質を大人がもっと理解する必要があると感じました。

これからはこども達と一緒に流山市を活性化し、こども会議をみんなで進めていくことができたらいいなと思います。

《矢部委員》

私は報告会にのみ参加し、どのようなこども達が参加しているかは分かりませんでした。しかし、彼らが緊張しながらも自分の意見を強く主張する様子を見て、良い雰囲気を感じました。

意見を積極的に述べるこども達だけが参加しているのではないかと感じていましたが、実際には学校生活で困難を経験しているこども達も参加していました。そのようなこども達が頑張って意見を述べる様子に感動し、そのようなこども達も意見を述べられる環境が素晴らしいと感じました。

このような事業は非常に良い取組だと感じました。

《村上会長》

事務局からの説明にありましたように、こども会議の企画を続けることで、こども達の声に応えていきたいと思います。皆さんも同じ考えを持っていると思います。また、小澤委員からの話により、大人の態度やスタンスも重要であると感じています。

各委員からご質問・ご意見ありがとうございました。

それでは、議題の（３）については以上とします。

最後に、議題の（４）「その他」についてです。事務局から説明をお願いします。

《事務局》

次回、令和６年度第２回子ども・子育て会議の日程のご案内です。

日時は、５月３０日、木曜日の午前１０時からを予定しています。次回は、（仮称）

流山市こども計画の骨子などについて、議論を進めていきたいと思います。委員の皆様、ご出席のほど、よろしくお願いいたします。

《村上会長》

ありがとうございます。

それでは、次回、令和6年度第2回の会議は、計画の骨子についての審議となる予定ですので、ご出席のほど、重ねてお願い申し上げます。

《若松委員》

すみません1点質問がありました。

流山市こども計画策定に関するニーズ調査について、今回は就学前のこども用と小学生用の調査の概要をまとめていただきありがとうございました。調査の目的自体に、こども計画の策定に当たり、教育や保育、子育て支援に関する利用状況、利用ニーズを把握するとともに、教育や保育、子育て支援の量の見込み算出に係る基礎データを取得することを目的としているというのが趣旨だと思うのですが、中高生に関しては意識調査は実施するものの、ニーズ調査は今回の枠にはないとの理解でよろしいでしょうか。

《事務局》

ニーズ調査について中高生の場合は、調査票ではなくヒアリングで補っていく予定です。

《若松委員》

こどもの意見表明の中で、特に中高生は重要な担い手になっていくと考えています。

子育て支援や、こどもへの支援は小学生までが主流で、その後成人になるまでのこども達への支援の枠組みがなかなか見えてきません。成人年齢が18歳になったこともありますし、国にもないかもしれないのですが、流山市としては、計画の中に中学生や高校中退後に学ぶ機会がないこども達、家庭を支えているこども達への支援等、様々な支援のあり方についてこども計画にも反映していただけたらと思います。

《村上会長》

次の会議のときにヒアリング調査のことについても検討したいと思います。そのと

きに、中高生についても議論していきたいと考えています。

それでは、令和6年度第1回流山市子ども・子育て会議を閉会します。お疲れ様でした。

以上